# 第１回　鳥取市中心市街地グランドデザイン検討会議　議事概要

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 令和８年９月２９日（火）９：００～１１：２０ |
| 場　　所 | 鳥取市役所本庁舎市民交流棟２階　多目的室１「麒麟 Square」 |
| 出席委員 | 筒井一伸委員、阿部俊彦委員、吉野和泰委員、橋尾泰博委員、西垣豪委員、真嶋茂委員、松浦秀一郎委員、木谷清人委員、谷口宏枝委員、田村康悦委員、渡世唱子委員、坂本佳代子委員 |
| ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ | 竹田佳宏氏、尾﨑恵輝氏、川上純一氏（代理：田中拓也氏） |
| 鳥 取 市 | 深澤市長、河田都市整備部長、筒井まちなか未来創造課長 |
| 事 務 局 | (株)とりぎん地域デザインパートナーズ　齋藤氏　ほか |

**＜議事内容＞**

**１　開会**

**【事務局】**

・座長選出までの進行

**２　市長あいさつ**

**【深澤市長】**

平成 19 年 11 月 30 日に第 1 期中心市街地活性化基本計画の認定を受け、以来取り組んできた。計画期間は 5 年で、現在の第 4 期は令和 5 年 4 月開始、今年度が 4 年目で令和 10 年 3 月に終了する。

第 1 期は対象区域 210ha で、既存事業を含め 73 事業を展開し、空き店舗率を一桁（9.8%）に、区域内の居住人口を当時の約 12,268 人から 4%増の 12,800 人に、歩行者通行量を増やすといった目標を掲げた。第 4 期は、区域内の 45 歳未満の人口が社会増・自然増を含め減らないことを目標としている。

中心市街地活性化は全国の地方都市で難しい課題である。来年度に第 5 期計画を策定するが、本会議で議論するグランドデザインはその中核を成す位置づけとなる。リノベーション、インキュベーションの取組も進んでいる。

これまでは行政が主体となってきた面もあるため、まちづくりに携わる事業者・住民・有識者に議論いただき、グランドデザインをまとめて第 5 期計画の中核に位置づけたい。第 5 期では実効性と実現性を高めることにも取り組む。二核二軸の二つの核である鳥取駅周辺の再生、鳥取城跡の復元整備が進められている中での策定であり、忌憚のない意見をお願いしたい。

（市長は公務のため、あいさつ後に退席）

## 3　委員紹介・座長選出・副座長指名

**【事務局】**

・委員紹介（名簿及び配席図での確認）

※オブザーバーの鳥取県商工労働部企業支援課は川上課長の代理で田中課長補佐が出席

・座長の選出

設置要綱第 5 条により座長は委員の互選とされており、事務局案として筒井委員の座長就任を提案し、承認

**【筒井座長】**

研究の専門は過疎地域対策で、総務省の過疎問題の有識者委員、県の中山間地域の活性化に関する協議会の会長を長く務めてきた。中心市街地は得意分野ではないので、委員・オブザーバー・事務局の活発な意見交換をお願いしたい。

鳥取の中心市街地は江戸時代の城下町とほぼ重なる。やまびこ館で学び直したが、若桜街道・智頭街道・鹿野街道のように城下の外の農村の地名がついた街道が残っており、城下町は周辺農村と共同して成り立ってきた。グランドデザインは中心市街地に住み働く人だけでなく、周辺地域の人に関心を持ってもらわなければ意味がない。自身は河原町の中山間地域に住んでいるが、河原や佐治の住民が「関係ない」と思うか「関係するかも」と思うかが、このグランドデザインの分かれ目だと考える。自分は交通整理役を務める。

副座長には、事前の調整の結果、西垣委員にお願いしたい。（拍手により承認）

## 4　本検討会議の設置・検討スケジュール（資料 1・資料 2）

**【筒井座長】**

委員の発言機会を多く取りたいため、事務局の資料説明はできる限り短くしてほしい。次第 3～6 を一括して説明をお願いする。

**【鳥取市】**

［資料 1-1］［資料 1-2］［資料 1-3］に基づき、資料を説明。

**【事務局】**

［資料 1-4］［資料 1-5］に基づき、資料を説明。

**【筒井座長】**

［資料 1-2］のとおり、グランドデザインは中心市街地活性化基本計画や個別の事業計画の上にかかる、全体を覆う「傘」でなければならない位置づけであることを確認した。

## 5　中心市街地の現況と空間特性分析について（資料３）

**【事務局】**

・［資料 3］に基づき、資料を説明。

**【筒井座長】**

詳細な分析で、この場で全体を理解するのは難しい。議論の際に必要な箇所を改めて参照いただきたい。

## 6　市民・関係者の意見について（資料４・資料５）

**【事務局】**

・［資料 4］［資料 5］に基づき、資料を説明。

**【筒井座長】**

中心市街地の昼夜間人口のデータはあるか。

**【事務局】**

手元にはないが、調べれば分かると思う。

**【筒井座長】**

空間の条件はよく分かるが、人の流動が分からない。ビッグデータ分析やパーソントリップ調査、通行量のデータなどがあるかもしれない。また［資料 4］［資料 5］の見出しにはハードの話も主体の話もあるが、誰がやるのか、誰のためなのかという議論が大前提として必要であり、それを意識したグランドデザインの議論になるとよい。

## 7　委員の自己紹介と中心市街地への期待

**【坂本委員】**

中心市街地活性化協議会から参加。［資料 5］にもあった旧市庁舎跡地のとりこいぱーくは普段の利用が少ないと認識している。せっかく整備されたきれいな空間であり、子育て世代をはじめ多くの人が集い、まちの中ににぎわいがあふれる街が理想である。

**【渡世委員】**

マルシェの運営と、丸由百貨店 5 階でのチャレンジショップの運営をしている。チャレンジショップは 6 年目で、挑戦した人が駅周辺等に計 10 店舗を持っている。自ら挑戦してファンと資金をつくり、伴走者を得てから出たことが根強い力になっている。空き店舗を探すのに苦労しているため、一般の人でも空き店舗情報を拾える共有の仕組みがあるとよい。

城跡周辺でのにぎわいづくりを 5 年間行っており、一昨日終えた。近年は若い人が公園で遊ぶ姿も見られ、まちなかと城跡がつながる場になればよい。駅周辺のマルシェは若いファミリー層向けで、日常でも子どもが安心して過ごせる、子どもが主体の「子どもパラダイス」のようなまちなかができたらよい。

**【田村委員】**

若桜街道活性化協議会から参加。商店街振興組合は高齢化し運営に苦戦しているため、組

合員の子ども世代にあたる 40 代～50 代で協議会を立ち上げ、先日も若桜街道ぶらり散歩を開催した。若桜街道を商売のエリアと位置づけたい。資料では物販の多いエリアとされているが、実際に商売が成り立っている店はそう多くないと思う。ただ居住しながら商売をしてきたエリアであり、小さく商売を始めやすいため、新たな商売人を生み出したい。

防火建築帯は課題であり、協議会のメンバーの多くが物件を持つが、雨漏りや改修費の問題で貸したくても貸せず、借りる側も改修費がかさみ現実的に難しい。一方で空き店舗は実際に減っており、活動を続けることで商売を始めやすいエリアとして認知されるとよい。

**【谷口委員】**

鳥取市社会福祉協議会の相談支援課で高齢者や障がいのある人に関わる業務をしている。今年 6 月の国の法改正で、身寄りのない高齢者の問題も取り上げられている。身寄りのない高齢者、生きづらさを抱える障がい者、子ども同士の集いの場をまちづくりに生かしたい。災害が多いため、日頃から使え災害時にみんなが安心して集える場所が作れるとよい。担い手が少ない中で、ボランティア活動もそこに加えられるとよい。

**【橋尾委員】**

遷喬地区のまちづくり協議会の会長。50 年間小売業を営み、鳥取の商業の変化を見てきた。中活計画は 4 期 20 年、そのたびにローリングをかけてきたが、実態にそぐわず見直しのたびに別の数値目標を立てざるを得なかった。行政が公共施設を配置し、周囲に民間投資を呼んでにぎわいをつくるという考え方で進めてきた。

以前の中心市街地は街全体が一つのエリアで、若桜街道・智頭街道の人通りが多かった時代には、その間をつなぐ川端・新町・二階町にも店が張り付き回遊性が高かった。今は線になり、その線も途切れている。二核二軸は思想・組み立てとしてはよいが、一度壊してもよい。20～30 年先の中心市街地は、これから活躍する 30 代～50 代が想いをぶつけて描くべきで、やっていて楽しいことでなければまちづくりは無理である。市の人口の半分は区域外に住み、合併した町村の住民も市民であり、中心市街地を利用してもらわなければならない。東部圏域の人が便利に生活できる環境を、事業者も含めてどう提供するかがまちづくりである。

**【筒井座長】**

来たくなる中心市街地、周辺の人を含め買い物だけでない来訪の理由が必要ということだと受け止めた。

**【西垣副座長】**

商工会議所副会頭として出席している。鳥取市観光コンベンション協会の会長も務め、中心市街地に拠点を構えている。商工会議所として観光を地域経済の活性化につなげる観点から関心がある。駅前の再整備の会議に出席し、中心市街地活性化協議会にもオブザーバーで参加している。

推進体制も見直す必要がある。当て職的に出るのではなく、グランドデザインを作って具体的に実現する役割を各自が重く背負って出る必要がある。まちづくりに取り組む人の声が届く組織を作り、変化が早い場合には急いで見直しをかけられるようにすべき。駅と城跡の両方に関わっているが、両者はつながっていない。駅を再開発するのであれば、中間の商店や城跡への影響、城跡での取組が街中・駅につながることを並行して考えるべきで、それができていないのはグランドデザインがないからだと思う。

公共施設の見直しは周辺のまちづくりに確実に影響する。「誰が」のうちの鳥取市の役割として、公共施設の再編をグランドデザインから外さず正面から入れ、行政と民間の役割を定義してほしい。ヒアリングが多くの部署に及んでいるが縦割りになりがちであり、公共投資が無駄にならないよう縦割りの解消を進めてほしい。商工会議所も調整役を担う必要があると感じている。

**【阿部委員】**

2008 年頃、早稲田大学の研究員として遷喬地区のまちづくりに関わり、戎町の建替え事業の検討にも関わった（最終的に実現しなかった)。防火建築帯の課題解消だけでなく、安心して住めるまちとして高齢者住宅や共同店舗、耐震のための建替え・耐震改修などを提案した。その反省点ややり切れなかったことをグランドデザインに生かしたい。当時は駅前には関心がなかったが、今は駅前の整備の検討にも関わっており、両者をどうつなぐかを考える必要がある。

回遊性の分析をどう使うかが重要で、点になってしまった所を無理につなぐのではなく、回遊性が高い所を強化し、安心して住む所は回遊性が高くなくてもよいのかもしれない。車社会の今後も含め、どのくらいの時間を見据えたグランドデザインにするかを最初に考えるべき。かつての中心市街地の指標は人口の回復や地価の上昇だったが、今は地価は上がらず、地価が下がった方が若い人がチャレンジできるという話もある。住民票上の人口が増えなくても、関係人口で街が保てる可能性もあり、何を高めるかを確認しながらグランドデザインを作るべき。

防火建築帯は、齋藤氏らの尽力でリノベーションによる活用も進んでいるが、15 年前に危ないと指摘した状態が今も残っている。富山県の氷見市の防火建築帯は、能登半島地震で被災し公費解体されることになった。所有者にはやっと壊せるという面がある一方、活用していた若い人には障害となった。災害はいつか起きるため、建替えやリノベをきちんと進めるための制度（国の支援も必要）につながるグランドデザインを考える必要がある。

**【吉野委員】**

専門は道路を中心とした公共デザイン。主にパリで研究しており、15 分都市を提唱する研究者の下で研究している。パリでは集積の経済に基づくゾーニングで居住・商業を誘導してきたが、近年は 15 分都市に代表されるように時間で都市を計画・マネジメントする動き

があり、空間の指標が時空間の指標に変わってきている。物理的な距離だけでなく、楽しく過ごせば時間が早く過ぎるという意味での実質的な距離を含め、都市にどれだけ多様な楽しみ方があるかを評価指標とする取組が世界の都市で進んでいる。

空間特性分析は興味深いが、エリアを特徴づけることに加え、そこがどれだけ多様に使われているか、特徴づけだけではない面白さや歩く喜びを描けるとよい。これまでと一段階踏み込んだ評価指標・分析の考え方を示せるとよい。時間軸には短期・中期・長期の 3 つのフェーズがあり、長期では人口減少を前提に大きな指針を示せるかが重要。雑居ビルなど建物 1 階以外にテナントが入る状況もある程度マネジメントしないと、にぎわいのあるまちづくりは難しい。

**【筒井座長】**

時間軸の話は［資料 6］［資料 7］の説明の中で補足いただきたい。地域福祉や過疎対策の世界では「ごちゃまぜ」という言葉が使われるが、均一化しないことの意味がどこかにあるということだと受け止めた。

**【真嶋委員】**

市の商店街振興組合連合会の代表理事。鳥取駅周辺リ・デザイン会議、商工会議所のまちなかにぎわい創出の委員会にも参加している。これまでの二核二軸をもっと広げ、「二核一面」になっていくと考える。面の中を駅周辺・袋川周辺・城跡周辺・民藝館通り周辺・弥生町周辺のエリアに分け、人の流れを踏まえてゾーンを決めていくことになるだろう。

鳥取は袋川で二分されている。江戸時代は川内までが町で、駅周辺は沼地であった。約 4 年前に商工会議所青年部が、花見橋と若桜橋の中間の土手に家族で過ごせる憩いの場をつくる提言を出した。以前には袋川にふたをして駐車場や広場にする案もあった。自身は、若桜橋ともう一つの橋の間に幅 30m 程度のイベント橋を架けることを提案しており、静岡市で川の上のイベント広場がにぎわっているのを視察した。

約 10 年前に滋賀のまちづくり会社を視察した。商工会議所青年部の現役・OB が立ち上げた会社で、市内の企業・商店を網羅する人々が入っており、かつての世話役のように出店の相談に応えられる。現状は分からないが、失敗していれば理由を、成功していればその要因を学ぶべき。「誰が」を考えると、しっかりしたまちづくり会社が必要ではないか。駅周辺だけが良くなればよいのではなく、周りを含めて一緒に考えなければならない。ここが一丁目一番地である。

**【筒井座長】**

まちづくり会社の話は推進体制にも関わる。「市民」という言葉で皆がイメージする市民は誰なのか、後ほど問いかけたい。

**【木谷委員】**

鳥取市文化財団の理事長で、鳥取民藝美術館の仕事も手伝っている。文化芸術を中心市街

地にどう位置づけるかが自分の立場だが、本日の説明には文化芸術がほとんど出てこなかった。カフェ・古本屋・本屋・古着屋などを含む文化芸術は回遊性や来訪の理由となる重要な「味付け」である。まちづくりは属人的な部分が大きいが、文化芸術は特にその度合いが高く、インフラだけでは進まない。

二核二軸は現状のインフラ・歴史的経緯の認識であって、それを高めていこうという話ではなく、そこを取り違えると誤った方向に進む。防火建築帯は、阿部委員が関わった約 20 年前の検討時点で築 50 年弱、現在は築 73 年程度であり、防火建築帯の第 1 号として記念性が高く、国の登録有形文化財となる可能性も十分ある。取り壊して建て替える方法のほか、耐震補強を加えてリノベーションする方法もあり、登録有形文化財という切り口からのまちづくりも可能性がある。

公共交通は重要である。くる梨はコースにより利用が伸びている所とそうでない所があり、理由は理解していないが、本数も少ないと感じる。駐車場について平日は余っているという話があったが、にぎわいを生むのであればそもそも不足しており、どの程度で足りるかを考える必要がある。

**【筒井座長】**

文化芸術という「味付け」、外から足を運ぶ意味を考える切り口だと受け止めた。

**【松浦委員】**

資料の公共交通にタクシーが出てこない。駅前の栄町で育ち、稲葉幼稚園の理事長として子育ての観点からも考えている。城跡周辺の住宅地ではスーパーが生活圏内になく、自転車やバス停までの歩行も困難な人がタクシーでスーパーに通うのは日常的な光景であり、ラストワンマイルを支えて生活を守ることに心を砕くべき。

若桜街道は日本の道 100 選、袋川の桜並木は日本のさくら 100 選、鳥取城は日本の城 100 選に選ばれており、狭いエリアに三つもあるのは鳥取のほか数都市しかないと記憶している。観光で城下町を訪れる人には駐車場が必要で、駐車場を経営して収益を得る人が出てくる必要がある。姫路駅から姫路城を望む光景は鳥取駅から久松山を望む光景に似ており、駅横のアーケード商店街の関係も本通りとサンロードに似ているが、姫路でさえ一本横の筋は閑散としている。人口規模の小さい鳥取で二軸を維持するのは無理があるのではないか。

空間特性分析で花見橋通りにポテンシャルがあるとされたので、駅と久松山をつなぐ花見橋通りに一つ象徴的な軸を集中させ、そこから尖った店舗を展開させることも考えられる。

駅前の大通りと民藝館通り・末広通りが交差する交差点の「とりせんビル」が閉鎖されるとされ、寂しくなることを憂えている。駅の再整備で計画されている複合施設の候補としてその建物を挙げるなど、駅の再整備をグランドデザインに溶け込ませることも一つである。

中心市街地は地元の人には生活の場であり、観光客にとっては過去の景色に自分を置いて追体験できる非日常の空間であるべき。

## 8　ポテンシャルと課題、グランドデザイン検討の重要な視点（資料 6・資料 7）

**【筒井座長】**

自己紹介で 30 分超過した。予定では［資料 6］［資料 7］の説明の後に議論を 2 回程度行うつもりだったが時間的に難しい。まず［資料 6］［資料 7］の説明をお願いする。

**【事務局】**

［資料 6］［資料 7］に基づき、資料を説明。

## 9　意見交換（グランドデザインは誰のためのもの・誰が実行するものか）

**【筒井座長】**

10 分程度延長させてほしい。（異議なし）

個々の視点をこの場で議論すると時間がなくなるため、1 人 1 分程度で全員に発言いただきたい。改めて、このグランドデザインは誰のためのものか、誰が実行するものかについて意見をいただきたい。日常（ほぼ毎日通う・生活する）、半日常（週 1 回程度来る）、非日常（観光客等）の立場を意識して、どの立場からでもよいので発言してほしい。本日は意見をまとめず発散でよく、後で事務局がまとめる。

**【松浦委員】**

沿道建物のインターフェイスは参考になったが、データの取得時点はいつか。サービス店舗に廃業したタクシー会社が含まれていないか。飲食店も年配の客が通う店から若い人が集まる店まであり、そうした属性を分析すると精度が上がる。

**【事務局】**

分析の目的は、沿道を歩く人が道沿いの状況をどう認識するかにあり、風景として捉えることを主眼にしている。昨年の夏に全通りを全天球カメラで撮影した素材（自身が撮影したもの）を見ながら、歩行者からの見え方としてマッピングした。1 店舗ずつ営業の有無を確認したものではない。今後の使い方や更新の程度は検討したい。

**【松浦委員】**

マッピングしたものを地元の生活者に見てもらい、実態と合っているか確かめるのが一つの方法だと思う。

**【事務局】**

自身もまちなかに暮らしている。データと市民の意見を重ね合わせることは今回のヒアリングでも行っているが、必要があればデータに重ねていくことを進めたい。

**【筒井座長】**

見え方は世代によっても変わるかもしれず、属性ごとに仮想的に見え方を分ける分析もできそうだ。

【阿部委員】
座長の問いに答えるなら、まちなかの生活者目線でグランドデザインを作るべき。生活者が周辺の人や市内外の人と、商売・ビジネス・暮らし・教育などでどう関係を持つかという目線で整理すべき。ビジョンづくりでは観光客・住民など多くのペルソナを立てがちだが、何でも入れると何を実行すればよいか分かりにくくなる。
【田村委員】
生活者の視点に加え、生まれ育った人間の視点を持ちたい。若桜街道はアーケードがあり1階から久松山を望みにくいが、2階以上や屋上から見る遮るもののない久松山の景色が大人になってから好きになった。見たことのある人は少ないと思う。住んでいても気づかない発見を取り入れ、住む人が楽しさを再認識できる形がよい。
【渡世委員】
デパ地下で営業しているが、ホテルが増え、滞在する観光客が来るようになった。店が開いていて食事ができる連動や、民藝館通り等を夜7時以降も散策できる環境があるとよい。駅南の河川付近など、整備後の美化が十分でない所がある。誰が来ても美しい街並みを保てるよう、美化にしっかり予算を取る環境が必要。
【筒井座長】
美化は誰が行うのか。
【渡世委員】
現在は公共施設・公園は団体が行い、民間ではボランティアが中心だが、もっとカジュアルに、例えば企業化して、きれいなユニフォームで美化を担うような形もよいかもしれない。
【筒井座長】
コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスのような商売のあり方の変化であり、農村部ではそうした動きが出てきている。
【木谷委員】
中心市街地のポテンシャルからすれば軸は半日常であろう。そこに日常も入り込み、非日常も入ってくる状態を目指すのが中心市街地のあり方であり、実際に生活している人も多いので、そのあたりが落としどころだと思う。防火建築帯に事業者がまち宿を1軒開業した。倉敷で、一社が7棟程度を持つまち宿の運営会社が3社ほどあるのを見て、鳥取でも十分成立すると改めて思った。
【筒井座長】
ゾーニングの話が気になっている。二核二軸をベースとしつつ面で捉える考えもあるが、そもそも「ここはこういう地域」と決めてしまってよいのか。
【吉野委員】

価値が多様化する中で、一つの特徴だけで場所を捉えるのは難しくなる。当初の目標が達成できず新たな目標を設定するという状況があったと理解したが、変化が激しく人口減少を前提とする中では、グランドデザインを社会実装し、それを測る指標を設定する際に、社会の状況に応じて毎年でも逐次更新される動的な計画とするのがよい。静的にゾーニングで空間を決めるより、生き物のように変化するものとして捉え、生活者の日常・半日常・非日常の価値のバランスを常にモニタリングする仕組みにすれば、その時々に最適なものを目指せる。

**【筒井座長】**

20 年間計画を見てきた立場から、吉野委員の話をどう受け止めるか。

**【橋尾委員】**

二核二軸を一度壊してもよいと述べたのは、資料のエリアを見ても、駅から県庁まで約 1.1km、城跡まで約 1.2～1.3km、若桜橋から城跡まで約 600～700m あり、以前のように面的な広がりがあればつないで界隈性があったが、今は点や線になっているからである。個人商店が扱っていた日用品は大手流通に置き換わり、残っているのは専門性の高い店である。通りを維持するには新しいニーズに合った店が出てくるしかない。計画を見ても中央の約 600m のエリアにテーマが一つも絞り切れていない。中心市街地を再生させるには、どこに重点を置くかをきちんと形にしたい。

**【筒井座長】**

生活している人が生活できなければ困る。ゾーニングをすると福祉のエリアはできにくく、年配の人が多く買い物先が限られる地域など、取り残される人が出ないかという不安がある。キラキラした世界も必要だが、そうでないものが必要な人の生活の観点から、グランドデザインにどういう視点が必要か。

**【谷口委員】**

身寄りのない高齢者は、今困っているのではなく将来困るときが来るのが不安なのだと思う。困ったときに支えてくれる地域の仕組みがあるという安心があれば、一人でも暮らしていける。現在、市民後見人の養成講座を開講しているが、定年の延長もあり担い手が少ない。一方で、第二の人生を誰かのために使いたい、前面には出たくないが自分にできる形で地域を支えたいという人は多い。気軽に立ち寄り、気軽にボランティアができる仕組みがまちの一角にあれば、高齢者や障がい者も暮らしやすくなる。

**【筒井座長】**

ボランティアは中心市街地の住民である必要はなく、外に住む人が来ればよい。農村では大学生が 2 時間かけて集落に通い農作業のボランティアをするのは普通だが、中心市街地ではあまり見ない。福祉でも商売のチャレンジでも、そうした世界が本来は必要ではないか。

**【真嶋委員】**

この会議は皆の想いが聞こえる良い会議だと思う。ふるさとの風景として一番に思い浮かぶのは久松山であり、姫路駅を降りると正面に白鷺城が見える景色のように、駅を降りた人が久松山・石垣を見て行きたいと思える景観を、駅のリ・デザインでもつくってほしい。石垣は市内で一番誇れる観光地だと思う。仁風閣は工事中である。近郊住民の意見も入れていかなければならない。

まちなかに人が住めなくなって久しく、空き地・空き家は多い。民間と行政が知恵を出し合い、子育て世代や学生に住んでもらいたい。鳥取大学・環境大学の学生は夜にまちなかでアルバイトをしており、まちなかに住んでも問題はない。昨年度運行された会員制の乗合交通とりモビは、約 200 か所の乗降場所があり、駅南の住民が飲みに出るにも便利だったが、今年度は予算がつかず止まっている。復活を求めている。週末はイオンモールに行く住民が、まちなかで過ごせる空間をどうつくるかを考えるのが本会議だと思う。

**【筒井座長】**

総合支所エリアの地域振興会議で鳥取駅周辺再生基本計画が紹介された際の議事録をすべて読んだが、反応は薄い。周辺の住民は職場も買い物も中心市街地に来ずに生活でき、にぎわいを求めるなら姫路・神戸に行く。周辺の人々を意識した方がよい。

**【坂本委員】**

阿部委員・田村委員の、まちなかの生活者の目線に賛同する。特に若者世代で、生まれ育ったまちなかに魅力を感じ、都会に出ても良い思い出のある鳥取に戻ってくる循環が生まれるとよい。

**【筒井座長】**

生活者をどうすれば増やせるか。大学生はまちなかに住んでいないが、住んだ方がよい。

**【西垣副座長】**

商工会議所・観光コンベンション協会の活動からすると、中心市街地で商売をする人は日常、砂丘で商売をする人は半日常だと思う。砂丘の人は砂丘のあり方を、中心市街地の人は市民・地域とのつながりを考えている。齋藤氏が中活協でここ何年か使っている「重なりしろ」を増やすことが大事ではないか。経済的には交わらなくても同じ鳥取市民として中心市街地を応援する関係をどう高めるか、駅の再整備や城跡周辺整備が市民の誇りになるかが問われる。そうした整理も必要であり、今後の会議に生かしたい。

**【筒井座長】**

［資料 1-2］のとおり、グランドデザインには解像度の高い個別計画を一つ一つ入れる必要はなく、中心市街地のありようの考え方、誰がやり誰のためかといった視点を明確にするもので、個別の課題は中活計画を作る際に入れ込んでいくという理解でよいか。

**【事務局】**

両面がある。大きなまちの姿を描き何が大切かを明らかにするのはグランドデザインの役

割である。一方、［資料 1-3］で整理したとおり、これまで中心市街地の具体的な計画はなく、都市計画マスタープランでも商業と居住の集積を図る程度で、策定中の立地適正化計画も同程度の解像度であり、まちなかで具体的に何をやるのかが見えていない。だからこそ中心市街地の計画が必要とされている。

回遊性をどこまでの範囲で広げるか、歩き回れる界隈をどの範囲に設定するか、住んでもらうためにどういう施策を打つか。政策・補助・事業の具体は中活計画で扱うが、グランドデザインは目指す都市の姿、すなわち都市をどう捉え、人にどう歩いてもらい、どこで消費しどこに住んでもらうかを、従来の計画より分かるようにしなければならない。抽象的すぎても、踏み込みすぎて他の計画とぶつかってもいけないため、バランスを狙い、実効性を持たせる計画にしたい。

**【筒井座長】**

残り 2 回の会議で細部に入ると事業の話になるため避けたいという意味で述べた。予算化や民間の関わり方はその先の段階であり、その手前までを扱うことを了解した。「誰が・誰のため」は、合併した鳥取市全体（本来は鳥取東部でもよい）を幅広く意識していただきたい。

委員への宿題として、［資料 7］の重要な視点のうち、自らの立場で関われそうな視点を考えていただきたい（全てについてでなくてよい）。必要に応じて自身の意見も追加していただきたい。事務局からメール等で連絡し、次回の手前までに意見をいただいて次の議論につなげたい。

## １０　閉会

**【事務局】**

・第 2 回会議は 12 月の開催を予定

・本日は以上で閉会